



鳥見の記 散策を楽しもう

第4回 みずき野周辺の水辺の鳥

2018.5



みずき野の自然がまだ冬の寒さを装っていた頃に始まった「[鳥見の記](#)」も第4回目になりました。木々が芽吹き新緑は目に眩しく感じ、梅雨入りの予報も発せられて、きれいに咲き揃う紫陽花の花が映える季節になりました。鳥たちにとっては、子育てに忙しい一番大切な季節。軒下で親ツバメがせわしなく雛に餌えさを与えるシーンは、近頃あまり見かけなくなりましたが、これから雛たちが巣立ち始める時期を迎えます。



子育て時期の 鳥見の ポイント

鳥の子育て期間は、平均的には抱卵がおおよそ2週間で、ふか孵化から巣立ちまでが3週間程度といわれています。

みずき野の[さくらの杜公園](#)と第1・第2調整池、周辺の水田地域は、野鳥観察を楽しみにする人達にとっては、大変ふさわしい環境です。この地域では一年を通して観察すると、約19種類位の水辺（河川・湖沼・湿地・水田・草地）の鳥たちが見られ、これまで「鳥見の記」で紹介した野鳥を含めると70種類程（表紙に掲載の鳥も含む）になります。

暑くなる盛夏から涼しくなる初秋の頃までの期間は、バーダーにとって、小鳥を目にする機会が少なくなりますが、初夏と暑さを過ぎた秋口頃までは、運がよければ、子育て中の親鳥や採食する鳥の光景を目にすることができます。特に水田の田起こし、水張りの田、麦狩り後の畑や秋口の稲刈り時期の田や池・沼等に注意して、散策するとよいでしょう。

初夏は「[どこでも・いつでも見られる鳥](#)」をゆっくり観察できる季節でもあるので、散策で身につけた目で、自然観察を続けていただければ幸いです。

アオサギ

「どこでも・いつで」も見られるアオサギは、サギの仲間では日本最大の大きさ(93cm)の鳥。河川・湖沼・水田・湿地に生息する留鳥です。全体に明るい青灰色で頭に黒色帯があり、その先に冠羽^{かんう}があり(幼鳥には、冠羽なし)ます。首の前側には黒縦班があり、脚は黄褐色(繁殖期はピンク)。採食する時にS字に曲げた首を伸ばして餌^{えさ}を捕食します。



3月頃 第2調整池



4月 取手農業公園



2月頃 第1調整池



3月頃 第2調整池



4月頃 農業用水路の田んぼ



6月頃 農業用水路の田んぼ 左は幼鳥



12月頃 第1調整池 魚を捕る



1月頃 第2調整池



2月頃 守谷城址公園の沼

ダイサギ

水辺をゆっくり歩きながら^{えさ}餌を採食するシラサギの中で最大の大きさ誇る89cmの鳥。湖沼・水田・湿地・干拓に生息する夏鳥で、冬は南下しますが一部は越冬します。首・くちばし・足が長く、夏の^{くちばし}嘴は黒く、目先が青緑色(繁殖期は濃いコバルトブルー)、背に長い飾り羽根がある、冬の

^{くちばし}嘴は淡橙色で目先は黄色になります。魚類・甲殻類・両生類を食べます。



1月 守谷城址公園の池



5月 市之台周辺の水田



6月 農業用水路



4月 農業水路 どじょうを捕る



農業水路の田畑 恋のペアダンス



4月 農業用水路脇の畑



農業水路の田畑 ザリガニか？



5月 農業水路の田畑



9月 農業用水路脇の畑 カエルを捕る



11月 城址公園の沼のアシ原



12月 城址公園の池

コサギ

シラサギの仲間では一番小さいサギ(61cm)で、河川・湖沼・水田・湿地に生息する留鳥。全身が白く、嘴は夏でも冬でも黒色で、脚の指が黄色であるのが特徴的です。



2月 第1調整池



11月 手賀沼



12月 第1調整池



11月 小貝川の中州



12月 城址公園の沼のアシ原

チュウサギ

シラサギの仲間です。中型の大きさ(68cm)の鳥。草地・湖沼・水田・湿地に生息し、**昆虫・カエルをよく食べます**。平地の林のコロニー^①のサギ山で主役です。^{くちばし}嘴は通常、黄色ですが夏に先端が黒くなり、背にからみ状の(透け感のある織物のような)飾り羽根が現れます。



6月 農業用水路の田園



9月 農業用水路の田園

鳥識① コロニー:
同種の鳥が集団で
繁殖する場所。

鳥識②サギの飛翔：
サギ類は、飛翔時に
長い首をS字に曲
げた状態で飛ぶの
が特徴。



8月 小貝川の岸辺



9月 農業用水路の田園



11月 農業用水路の田園



9月頃 農業用水路の田園



10月 農業用水路の田園

アマサギ

あまいろ
亜麻色の頭と飾り羽根が特徴のサギで大きさ 50cm、水田・湿地草地に
生息する夏鳥です。頭～胸、背の飾り羽根が橙黄色で他が白いのがチャ
ームポイント。ただし、冬は全体が白く、^{くちばし}嘴は橙黄色で足は黒。繁殖期
には^{くちばし}嘴と足が朱色になります。昆虫やカエルを好む食性ですが、他の
サギ類と違い牛などの大型草食動物について歩き、それにたかる虫や飛び出すバッタを狙いま
す。アマサギは、^{くちばし}嘴の黒いコサギや首の長さが違うチュウサギとは容易に区別ができます。



4月末 抜き足、指し足、捕まえたっ！ ドジョウかな？



5月頃 農業用水路周辺の田園と水田



9月頃 農業用水路周辺の田園 稲刈りの後を追ってバッタを食べる



サギの仲間の見分け方

大きさや首の長さの違い、季節による^{くちばし}嘴の色の違いで識別できます。ダイサギとチュウサギは口角の位置に違いがあります。

	ダイサギ(89cm)	チュウサギ(68cm)	コサギ(61cm)	アマサギ(50cm)
夏の嘴	 <p>嘴が黒 目の周囲が青</p>	 <p>嘴が黒 目の周囲が黄色</p>	 <p>嘴は一年中黒</p>	 <p>頭と嘴が橙色</p>
冬の嘴	 <p>嘴が淡橙色 目の周囲が黄色</p>	 <p>淡橙色の嘴の先端が黒 目の周囲が黄色</p>		 <p>頭が白で嘴が橙色</p>

	ダイサギ(89cm)	チュウサギ(68cm)	コサギ(61cm)	
その他の特徴	 <p>口角が目の後ろまで伸びる</p>	 <p>口角は目の下まで</p>	 <p>脚の色は黒色だが脚の指が黄色</p>	

ゴイサギ

白い2本の冠羽を持つ留鳥で大きさ 57cmの鳥で、河川・湖沼・水田・池に生息します。成鳥は頭と背が紺色、顔と首・腹が白、目が赤く、嘴は黒、脚は黄色で、他のサギ類とは、色彩的にかなりの違いがあります。

ゴイサギの幼鳥は「ホシゴイ」という独自の名前で、外見は同じ鳥とは思えないほどです。成鳥になるには2～3年かかるといわれています。



6月頃 農業用水路周辺の水田



10月頃 守谷城址公園の沼のホシゴイ
(成鳥への変身途中)

カルガモ

池や水路があれば**どこにでも生息するなじみ深いカモ**。

大きさは63cmで、河川・湖沼・水田・池に生息する留鳥です。顔に2本の黒褐色の線があり、^{くちばし}嘴は黒くその先端が黄色いのが特徴。繁殖期以外

は普段は、群れを形成して生活しています。



5月7日
農業用水路
付近の水田



5月12日 取手農業公園



5月12日



6月15日 農業用水路 生後2週間頃



6月30日 もうすぐ一人前



7月6日 農業用水路



入水もちゅうちょせず ドボン！



7月17日 農業用水路 3兄弟お尻フリフリ散歩



8月12日 水切り動作の大人



8月20日 取手農業公園 単独行動



10月 農業用水路上空

タシギ

田んぼで多くの時間を過ごす、日本では一般的なシギで大きさ 27cm。湿地・河原・湖沼・水田に生息する冬鳥です。頭・顔に黒線があり、背・形は白線で腹は白色です。湿地を好み、長い^{くちばし}嘴を上下させ、泥中に刺してミミズや昆虫の幼虫を食べます。



1月 第2調整池



2月

カワウ

黒づくめの体が特徴で潜水上手な水辺の鳥で、大きさ 81cm。灰褐色の先がかぎ状の長い^{くちばし}嘴を持つ留鳥で河川・湖沼・池・港湾に生息します。繁殖期には目の下が赤くなります。



7月 第2調整池



1月 第1調整池

**みずき野第1・第2調整池や小貝川の中州、
城址公園の沼と池ではこんな水辺の鳥たちが
見られることもあります。**



1月 小貝川の中州
イソシギ(留鳥)



1月 第1調整池
オカヨシガモ(冬鳥) オス



1月 第1調整池
オカヨシガモ オス・メス・オス



2月 クサシギ(旅鳥)



2月 第1調整池
オナガガモ(冬鳥) オス



2月 第1調整池
オナガガモ メス



2月 第2調整池
カイツブリ(留鳥)



2月 小貝川の中州
カワアイサ(冬鳥)の群れ
頭が深緑色はオス 茶色がメス



2月 小貝川の中州
カワアイサ(冬鳥)



2月 第2調整池
カイツブリ(留鳥)



5月 第2調整池
コガモとカルガモ(留鳥)



10月 第2調整池
キングロハジロ(冬鳥)



11月 小貝川の中州
マガモ(冬鳥)



12月 第2調整池
オオバン(留鳥)



12月 小貝川の中州
ウミネコ(海辺の鳥)



12月 小貝川の中州
ウミネコ(海辺の鳥)

【附録】 水辺に限らずに第1・第2調整池での遊ぶ鳥たち





○前回のクイズの答え

第3回表紙の鳥の名前

アカゲラ	ヒレンジャク
オオワシ	コクチョウ
ソウシチョウ	イソヒヨドリ
カイツブリ	キングロハジロ

第4回(今号)表紙の鳥の名前

ウミネコと ユリカモメ	オオハクチョウ
タンチョウ	ノゴマ
ユリカモメ	セイタカシシギ
ヒシクイ	タゲリ

※次回は夏場のみずき野周辺で見られるタカ類やシギやチドリの紹介と、冬でもみずき野周辺では見られない水辺の鳥 -- ハクチョウやカモ類を紹介しましょう。

3丁目のバーダー・サトー 佐藤 健三